

外 国 語

- 外国語－１**（コミュニケーション英語Ⅰ）・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
〔使用教科書〕『NEW ONE WORLD Communication I』（教育出版）
Lesson 6 We Are the World
ターゲットとなる文法事項を用いて自らの考えを表現し、それについての意見をグループで話し合うことによって、思考を深める事例
- 外国語－２**（英語表現Ⅱ）・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
〔使用教科書〕MY WAY English Expression II（三省堂）
Part 2 パラグラフを書いてみよう
様々な文章を読み、それについての内容や意見をグループで英作文し、発表し合うことによって、深い学びにつなげる事例
- 外国語－３**（コミュニケーション英語Ⅲ）・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
〔使用教科書〕『Vivid English Communication Ⅲ』（第一学習社）
Lesson 5「Can Cellphone Recycling Help African Gorillas?」 part.2
身近なものや世界で起きていることを関連させて考えさせる事例
- 外国語－４**（コミュニケーション英Ⅱ）・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
〔使用教科書〕PROMINENCE Communication English II（東京書籍）
Lesson 8 Welcome to the world of Tove Jansson
物語の背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに注目しながら考察し、形成された考えを英語で伝え合うことにより、多面的思考を育成する事例。
- 外国語－５**（コミュニケーション英Ⅲ）・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
〔使用教科書〕PROMINENCE Communication English Ⅲ（東京書籍）
Lesson 9 A New Way of Remembering
文章を読んで出た意見をグループで可視化（外部化）し、それらを共有することによって、深い学びにつなげる事例
- 外国語－６**（コミュニケーション英語Ⅰ）・・・・・・・・・・・・・・・・ 158
〔使用教科書〕『MY WAY English communication I』（三省堂）
Lesson6 Washoku - Traditional Japanese Dishes -
「グローバル化」について、賛成や反対の立場から、情報や考えなどを理由や根拠とともに話して伝え合うことにより、自己の考えを深める活動事例。

ターゲットとなる文法事項を用いて自らの考えを表現し、それについての意見をグループで話し合うことによって、思考を深める事例

【学習活動の概要】

1 単元名 『NEW ONE WORLD Communication I』（教育出版） Lesson 6 We Are the World			
2 単元の目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・苦しんでいる人々に対して、様々な方法で援助することができることを理解する。 ・学校生活の話題やボランティア活動などについて、情報や考えなどのやりとりを行う。 ・SV0(=疑問詞節)、SV0+to 不定詞、疑問詞+to 不定詞の用法を理解し、それを用いて表現する。 			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容や情報を、プレゼンテーションを通して積極的に発信している。 ・事実や願望などを、友達に伝わるように音読している。 	<p>“We Are the World”が生まれた背景を簡潔にまとめて、表現できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや支援活動について、自分の考えを伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界には苦しんでいる人々がいることを知り、さまざまな支援活動があることを理解できる。 ・ボランティア活動や支援活動の考え方や方法について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SV0(=疑問詞節)、SV0+to 不定詞、疑問詞+to 不定詞の用法を理解している。 ・歌を通じた支援活動の在り方などについて理解している。
4 単元の概要			
<p>本単元は、過去に起きた災害を支援するために誕生した有名な曲に込められたメッセージを読み取り、生徒自身に考えさせる内容である。S+V+O(=疑問詞節)の構造を理解するとともに、それを用いて自らが知りたいこと・疑問に思うこと、また友人の疑問に対する解答・解決策を英語で考え表現する言語活動を行う。</p>			
5 単元の指導計画（全6時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートや音読活動を通して本文の内容や重要表現を理解する。 	<p>第1次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容に対する興味を深めていくために、ペアでお互いの意見を話し合い、情報を整理する場面を設ける。 	
第2次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット文法を理解し、それを用いて「自らが知りたいこと・疑問に思うこと」についてライティングをする。 ・まずはグループの中でその疑問に対する解答・解決策を考え、その後クラス全体で考える。 	<p>第2次</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでの学びを人生や社会に生かせるよう、ライティングのテーマは生徒自身の生活と関連したものを設定させる。 ・グループ内で話し合うことによって、自らの考えを整理し、再構築させる。 ・クラス全体で解答・解決策を考えながら、考えを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりする力を養う。 ・生徒が深く考えられるような時間を与え、それでも考えがまとまらないようであれば始めは日本語を介し、その後に英語で表現するというステップを踏んで、自らの考えを表現させる。 	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

- 生徒が自らの経験や普段の生活の中で疑問に思っていることを、新たに学習した文法事項 S+V+0 (=疑問詞節) を用いて表現する。また、他者が疑問に思っていることの解決策を自らの経験や考えをもとに簡潔に書く。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。 (「コミュニケーション英語 I」 2 (1))

- 生徒が自らの経験や普段の生活の中で疑問に思っていることを、新たに学習した文法事項 S+V+0 (=疑問詞節) を用いて表現する。また、グループやクラス全体で、他者が疑問に思っていることの解決策を話し合ったり意見の交換をしたりする。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。 (「コミュニケーション英語 I」 2 (1))

【深い学びの実現に向けた工夫】

本指導事例は、教科書で学習した文法事項をもとに「自らが知りたいこと・疑問に思うこと」についてのライティングをし、それに対する解答・解決策をグループやクラス全体で考えることを通して、相手の考えを外国語で的確に理解し、自らの考えを適切に伝え合う力を養うことを目標としたものである。指導前の生徒は、自らの考えを英語で書くことはできるが、他者からの問いに対して即興で応答することは難しい。しかし本活動を通して、重要表現を用いた他者からの疑問・相談に対し、具体的な解決策を考え、英語で応答することができる力へとつなげる。

〔グループ活動前の指導と留意点〕

- ・ワークシートに「自らが知りたいこと・疑問に思うこと」を、ターゲットとなる文法である間接疑問を用いて表現する。この後のグループやクラス全体でその疑問に対する解決策を考える活動に向けて、「普段の学校生活で疑問に思っていること」や「自分が住んでいる地域の謎」のような、クラス全員で共有でき、また全員が思考を巡らせることができるようなテーマを与える。

〔グループ活動における指導と留意点〕

- ・グループのメンバーが書いている「自らが知りたいこと・疑問に思うこと」に対する解答・解決策をグループ内で考え、ワークシートに記入する。これにより全てのメンバーが発話をし、解決策を考えることになる。他の生徒と考えを共有し話し合うことを通して、自らの考えを深めさせる。
- ・グループ内で解答・解決策が出なかった、もしくはクラス全体に聞きたい質問を話し合っただけで、黒板に書かせる。他の生徒が解答・解決策を導き出しにくい質問が出てくることを避けるために、この質問に対する解決策をこの後にクラス全体で考えるということを事前に生徒に伝える。

〔クラス全体での活動における指導と留意点〕 ※この指導事例の山場となる活動

- ・各グループが黒板に書いた質問ごとに、クラス全体に問いかける。提示された質問と自らの生活とを関連させて考え、その解決策を英語で発表しようと考えを巡らせることによって、深い学びへとつなげることがねらいである。グループ活動を通して解答・解決策の表現の仕方は慣れていると思われるので、生徒の主体的な発表を促す。生徒から出てきた解答・解決策は板書し、後から振り返られるようにする。
- ・この時間に生徒から出された解答・解決策の他に、より良いものがないか考えてくるよう指示をする。授業後も思考を巡らせることで、さらに深い学びへとつなげる。

〔実際に授業をしてみて…振り返り〕

- ・この指導事例の山場である、各グループが黒板に書いた質問に対してクラス全体で解決策を考える活動では、授業時間が不足したこともあるが、予想より活発な応答は見られなかった。次時に再度解決策を聞いてみると、多少日本語を介しながらではあるが良い意見が出た。生徒は具体的な解決策を考え出すことはできても、それをスムーズに英語で表現する力が十分ではなかったと思われるので、同様の活動を継続しながら、同時に英語基礎力の向上を図っていく必要がある。

学習指導案

外国語科（コミュニケーション英語Ⅰ）

- 1 学 年 1 学年
- 2 教 材 名 「NEW ONE WORLD Communication I Revised Edition」（教育出版）
- 3 大 単 元 名 Lesson 6 We Are the World
- 4 大 単 元 の 目 標 苦しんでいる人々に対して、さまざまな方法で援助できることを理解する。
- 5 大単元の学習計画 Part 1・・・6時間
- 6 本時の小単元名 Part 1（5時間目 / 6時間中）
（授業の見所）各グループの質問に対して、他のグループの生徒が解決策を英語で述べる場面。
- 7 本 時 の 目 標 (1) S+V+O（＝疑問詞節）の構造を理解し、それを使って自己表現ができる。
(2) 自らが疑問に思うこと、また友人の疑問への解決策を英語で考え表現することができる。
【外国語表現の能力】
- 8 本時の学習展開

過程	学 習 内 容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時 間
導 入	warm-up (criss-cross)	・教師の質問に対してできるだけ早く 挙手をし、答える。	・教科書の本文中にある英単語等 を使って質問をする。		3分
展 開	教科書 P. 67 Grammar 説明	・教師の説明を聞き理解できるよう努 める。教師からの発問に答える。	・教科書 P. 67 の Grammar (S+ V+O (＝疑問詞節)) について 説明する。	・ S+V+O (＝疑問 詞節) について理解 できている。	6分
	Practice 解答	・問題演習に取り組み、教師からの発 問に答える。	・ Practice を解答させ、答え合わ せをする。		10分
	Let's Try!	・【ワークシートの1に取り組む。】 S+V+O (＝疑問詞節) を用いて自 分が知りたいことを書く。 ・【グループを作り、ワークシートの 2に取り組む。】 それぞれの生徒が知りたいこと に対する解決策を、グループ内で考 える。 ・【ワークシートの3、4に取り組む。】 グループで1つ、全員に聞きたい質 問を決め、全体に聞いてみる。解決 策が思いつく生徒はそれを発表す る。	・ワークシートを配付し、生徒に 取り組ませる。机間指導し、必 要に応じてアドバイスする。 ・グループをきちんと作らせる。 グループ内で全員が取り組んで いるか確認する。 ・それぞれのグループで質問を1 つ決めさせ、発表させる。その 質問を板書し、解決策を思いつ いた生徒に発表させる。解決策 が出なければヒントを与えなが ら個々に聞いてみる。	・自らの考えを S+V +O (＝疑問詞節) を用いて表現でき ている。(ワークシ ート) (外国語表現 の能力) ・積極的に発表してい る。 ・観点について (A)質問に対して、英 語での確な解決策 を述べている。 (B)英語で積極的に自 らの考えを述べて いる。	8分 8分 8分
ま と め	まとめ	・授業後に、他により良い解決策がないか考 えてみる。 ・ワークシートを提出する。	・他により良い解決策がないか考 えてくるよう指示を出す。 ・ワークシートを回収する。		2分

9 本時の評価と手立て

- (1) S+V+O（＝疑問詞節）の構造を理解し、それを使って自己表現ができるか。
手立て：ポイントとなる部分の板書を参考にさせながら、文構造を確認し自己表現につなげる。
- (2) 自らが疑問に思うこと、また友人の疑問への解決策を英語で考え表現することができるか。
手立て：机間指導をしてヒントを与えたり、他の生徒の英文を参考にして、自分の考えを表現できるようにする。

P. 67 Let's try!

class: _____ number: _____ name: _____

1. Let's make your own sentences about what you want to know.

ex 1) Q. I wonder how I can get a good score in math. <about your school life>

ex 2) Q. I want to know where I can buy a ticket for the concert. <about your town>

ex 3) Q. I want to know when it will snow.

your own question:

2. Share your questions in your group, and consider the answers for each question.

ex 1) A. You should study the math textbook repeatedly.

ex 2) A. You can buy it at LAWSON. You should use LOPPI.

ex 3) A. I think it will snow in early December because it usually snows then.

answers for your question:

3. Choose one question which you want to ask to everyone in your group.

your group's question:

4. Ask the question to everyone, and you may find the best answer!

how to ask) We want to know _____ . Does anyone find the answer?

answers of your group's question:

☆Can you find good answers?

様々な文章を読み、それについての内容や意見をグループで英作文し、発表し合うことによって、深い学びにつなげる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 MY WAY English Expression Ⅱ（三省堂） Part2 パラグラフを書いてみよう			
2 単元の目標 相手に伝わるような、ある程度まとまった英文をグループで協力して作成し、工夫してプレゼンテーションをしている。			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
グループでの言語活動に積極的に取り組んでいる。	読んだ記事の内容や考えを英語で簡潔に書くことができる。 表現方法を工夫して、英語で伝えることができる。	他のグループの英語での発表を聞いて、情報や考えなどを理解している。	記事について他者と話し合うことで、考えを深めている。 文章の構成を理解している。
4 単元の概要 (1) 学習内容 グループで、国際・生活・芸術文化などに関する新聞記事の一つを選び、選んだ理由とその記事について考えたこと、思ったことを英語で書き、全体に発表する。記事内容についてグループ内で話し合い、さらに全体に発表することによって、情報や自分の考えを形成、整理、再構築させる意図がある。また、聞き手に伝わりやすい表現を工夫することによって、外国語で適切に伝え合うことができる資質・能力を育むことを意図した。			
(2) 教材・教具 ・新聞、オリジナルワークシート①、②、評価シート③ 〈画用紙、マジック（プレゼンテーションの時に使用する資料作成のため）〉			
5 単元の指導計画（全3時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (1時間)	【知識の定着】 ・エッセイの構成や書き方を学ぶ。 ・エッセイの構成や書き方に関する教科書の問題を解く。	・英作文のテーマを決めさせる際に、実用的な文章である新聞記事を読ませることで、日本や世界が抱える問題にも関心を持たせ、自分の意見・考えの形成につなげる。	
第2次 (1時間)	【英作文】 ・個人で最も興味のある新聞記事を1つ選び、英作文したものを、グループで回し読みをする。 ・グループごとに、最も興味のある新聞記事を1つ選び、協力して英作文する。	・記事について話し合い、自分と異なる意見を聞くことで、物事を多面的な視点から考えられるようにする。 ・記事を選んだ理由を書かせることで、物事についてより深く考えられるようにする。	
第3次 (1時間)	【プレゼンテーション・振り返り】 ・選んだ記事について考えたことや思っ	・他のグループの発表を聞くことで、他	

	<p>たことなどを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英作文を完成させ、相手に伝わるように表現を工夫して発表する。 ・自己評価を行う。 ・ワークシートの回収。 	<p>のグループが選んだ記事について知ろうとするきっかけを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション活動を行うことで、聞き手を考えた表現の工夫を考えさせる。
--	--	---

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例では、選んだ記事の内容やその記事について考えたことなどを相手にわかりやすく伝えるために、表現の工夫をすることが必要である。学習指導要領の英語表現Ⅱの目標にある「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度」や「事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力」を向上させることにつながるものとする。また、選んだ記事の内容やその記事について考えたことを英語で表現するだけでなく、相手にわかりやすく伝えたり、相手の話した内容や考えを理解したりすることも大切である。そのため、グループ活動やプレゼンテーション活動を通して、情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりする言語活動の充実が必要である。

【深い学びの実現に向けた工夫】

(1) 生徒の実態と目標設定

プレゼンテーション活動やライティング活動に取り組む経験が少なかった生徒が多い。しかし、ペアやグループ活動に意欲的に取り組む生徒が多くいる。そこで、気になる新聞記事について自分の意見を英語で書くという言語活動を通して、「情報や考えを適切に表現し伝え合う力の育成」と、クラス全体での発表活動を通して、「聞き手に配慮しながら外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」の二つを目標として設定し、考えを深められるような工夫を取り入れた。

(2) 実現に向けた工夫

グループで作成した英文を全体の場で発表するということを授業の最初に明示することで、相手に伝わる表現について考えたり、発表方法について考えたりする意識を持たせるようにした。また、グループでの話し合いを通して、自分とは異なる意見を聞き、物事を多面的な視点から考え、グループとしての意見をまとめることで、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築する場を設定した。さらに、クラス全体で発表することで、個々の思考がより一層深まる機会になると考えた。

(3) 成果

新聞記事を教材として使用することは、「現代社会で必要とされる文章を読んで理解し、自分の考えを話し合う」という言語活動の充実につながると考える。実際、生徒は記事について自分の考えを書いたワークシートを見せ合い、「なるほど」や「この文章はどういうこと？」などと話し合う場面が見られ、物事に対する生徒の多角的な見方が育成できていたように思う。知らない記事に興味を示した生徒もいたが、表面的な話し合いで終わったグループもあり残念であった。

また、プレゼンテーション活動を行うことで、生徒はわかりやすく伝えるために「その英単語は難しいからこの表現にしよう」などと工夫する姿が見られた。さらに、お互いの発表を見て評価し合うことで、「絵や劇を使っていてわかりやすかった」と評価シートに書いた生徒もいた。このことから、生徒は聞き手に伝わりやすい表現の工夫について考えを深められたと思う。

(4) 課題

「取り上げた記事についてどう思うか」など、自分の考えを深めさせることが不十分だった。そのため、「なぜそのように思ったのか」と理由を問うことで考えを深く掘り下げたり、発表に対する意見交換を行ったりして、思考を深めていくことが必要だと思った。また、「良いプレゼンテーションとは何か」を考えさせるために、映像などを活用し、具体的な模範を提示することで、相手に伝わるプレゼンテーションについて考えさせることが必要である。さらに、発表を聞いて質問する活動を取り入れ、生徒の質問力を育成することも必要であるとする。

学習指導案

外国語科（英語表現Ⅱ）

- 1 学 年 3 学年
- 2 教 材 名 MY WAY English Expression Ⅱ（三省堂）
- 3 大 単 元 名 Part2 パラグラフを書いてみよう
- 4 大単元の目標 (1) エッセイの構成がわかる。
(2) 相手に伝わるような、ある程度まとまった英文を作成することができる。
- 5 大単元の学習計画 ①エッセイの構成・書き方を学び、教科書の問題を解く。 1 時間
②個人の英作文を回し読みし、その中からトピックを1つ選んでグループで英作文を書く。
1 時間
③相手に伝わるようなある程度まとまった英文を書いて、発表する。 1 時間(本時)
(見所) グループごとに協力してプレゼンテーションをする場面。
- 6 本時の小単元名 Essay Writing エッセイ（複数のパラグラフがある文章）を書いてみよう。
- 7 本 時 の 目 標 相手に伝わるようなある程度まとまった英文をグループで協力して作成し、工夫してプレゼンテーションできる。【関心・意欲・態度】
- 8 本時の学習展開

過程	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導 入	What's the news?	・ Tが読み上げる英文を聞く。	・ 本時の活動につながるような、ある程度まとまった英文を読み上げ、発表する。		5分
展 開	グループで“The most interesting news”の英文と発表資料を作成(20分) 発表準備と練習(10分) 発表・評価(10分)	・ 発表方法を確認する。 ・ グループで協力し、前回自分たちで決めたトピックについての英文を完成させ発表資料を作る。 ・ 役割分担を決めて発表準備をし、練習する。	・ 発表方法を説明する。 ・ 机間指導をして、グループごとにアドバイスを する。 ・ 役割分担を決めさせ、発表の練習をさせる。	・ 相手に伝わるようなある程度まとまった英文を協力して作成し、工夫して発表している。【関心・意欲・態度】（観察、ワークシート点検） ・ 発表資料作成のために画用紙を使用。	40分
ま と め	振り返りシートに記入 次回の連絡	・ 振り返りシートに記入する。 ・ 次回の連絡を聞く。	・ 振り返りシートに記入するように指示する。 ・ 次回の連絡をする。	<評価方法> A：4グループ中3～4グループが聞き取れている。 B：4グループ中1～2グループが聞き取れている。	5分

9 本時の評価と手だて

- (1) 相手に伝わるようなある程度まとまった英文をグループで協力して作成し、工夫してプレゼンテーションをしているか。
手だて：机間指導を行い、グループごとに英文を添削したりヒントを与えたりする。

Write “the most interesting news” in English

3C Name _____

1. Listen to teacher’s story in English and fill in the following blank.

The news is (_____)



2. Fill in the following blanks in Japanese with your group members.

【Hints】 相手に伝えたい・紹介したい気持ちで文を考えてみよう

①The news is _____(Write in Japanese or English)

②Write information about interesting news in Japanese. (英文作成のためのメモを書こう。)

Q1. どんな news? → _____

Q2. 選んだ理由①は? → _____

Q3. 選んだ理由②は? → _____

Q4. その他付け加えたいこと → _____

③Fill in the following blanks in suitable(適切な) English with your group members.

(②のメモを参考に英文を作成しよう。)

We introduce _____.

(Q1) _____

There are two reasons.

(Q2) First, _____

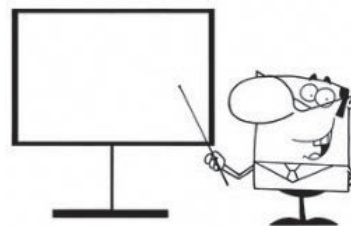
(Q3) Second, _____

(Q4) _____

So we chose it, thank you. / Thank you for listening. / It’s the most interesting news, isn’t it? Thank you.

【Presentation Rule】

- Simple English
- Within 1 minute
- Say 1 sentence(by everyone)
- Don’t look at the paper



【学習活動の概要】

<p>1 単元名 『Vivid English Communication Ⅲ』（第一学習社） Lesson 5 「Can Cellphone Recycling Help African Gorillas?」 part.2</p>																					
<p>2 単元の目標 ・携帯電話という身近にあるものが、アフリカ諸国とつながっているということを考える。 ・自分の意見を英語で書いたり、話したりして自己を表現する。</p>																					
<p>3 単元の評価規準</p> <table border="1"> <tr> <td>コミュニケーションへの関心・意欲・態度</td> <td>外国語表現の能力</td> <td>外国語理解の能力</td> <td>言語や文化についての知識・理解</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、意見を取り入れるなどコミュニケーションを図ろうとする。</td> <td>英語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に伝えている。</td> <td>英語を聞いたり読んだりして、情報や考え、また他人の意見などを的確に理解している。</td> <td>英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。</td> </tr> </table>				コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、意見を取り入れるなどコミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考え、また他人の意見などを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。										
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解																		
コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、意見を取り入れるなどコミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考え、また他人の意見などを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身につけているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。																		
<p>4 単元の概要 今や日常生活になくてはならない携帯電話が、遠く離れたアフリカ奥地の動物の生活に大きな影響を与えることを理解し、<u>各自の身近なものを世界と結び付けて整理させ、深く考えることに取り組みさせるねらいがある。</u>そして、<u>環境保全に対して今後自分自身がどのように関わっていくのかを、他人の意見も参考にしながら、自分なりに深く考えていく方法を身につけさせたい。</u></p> <p>教材・教具</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント、ワークシート 																					
<p>5 単元の指導計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>次</th> <th>学習活動</th> <th>指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 時間 導入</td> <td>・背景知識を提示し、本時への興味付けを行う。 ・携帯電話のリサイクルがもたらす効果とゴリラへの影響を読み取らせる。</td> <td>第一次 ・一見関係なさそうに見える、携帯電話とゴリラに共通する点を考えさせる。その後、携帯電話に使われている素材であるコルタンとゴリラの生息地で起こっている現場の状況を想像させる。</td> </tr> <tr> <td>1 時間 情報の整理</td> <td>・携帯電話リサイクルの現状を読み取らせる。</td> <td>第二次 ・情報を整理しながら生徒に考えさせる。</td> </tr> <tr> <td>1 時間 再構築</td> <td>・コルトンの採掘活動とゴリラへの影響を読み取らせる。 ・動物園が取り組んでいる携帯電話のリサイクル・プログラムについて読み取らせる。</td> <td>第三次 ・携帯電話をリサイクルする、またはリサイクルしない理由について考えさせ、自己表現させる。他人の意見を聞き、自分の意見を再構築させる。</td> </tr> <tr> <td>1 時間 内容確認</td> <td>・本文内容の大きな理解をチェックする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 時間 文法確認</td> <td>・本文中で扱われた言語材料の整理と運用練習を行う。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				次	学習活動	指導上の留意点	1 時間 導入	・背景知識を提示し、本時への興味付けを行う。 ・携帯電話のリサイクルがもたらす効果とゴリラへの影響を読み取らせる。	第一次 ・一見関係なさそうに見える、携帯電話とゴリラに共通する点を考えさせる。その後、携帯電話に使われている素材であるコルタンとゴリラの生息地で起こっている現場の状況を想像させる。	1 時間 情報の整理	・携帯電話リサイクルの現状を読み取らせる。	第二次 ・情報を整理しながら生徒に考えさせる。	1 時間 再構築	・コルトンの採掘活動とゴリラへの影響を読み取らせる。 ・動物園が取り組んでいる携帯電話のリサイクル・プログラムについて読み取らせる。	第三次 ・携帯電話をリサイクルする、またはリサイクルしない理由について考えさせ、自己表現させる。他人の意見を聞き、自分の意見を再構築させる。	1 時間 内容確認	・本文内容の大きな理解をチェックする。		1 時間 文法確認	・本文中で扱われた言語材料の整理と運用練習を行う。	
次	学習活動	指導上の留意点																			
1 時間 導入	・背景知識を提示し、本時への興味付けを行う。 ・携帯電話のリサイクルがもたらす効果とゴリラへの影響を読み取らせる。	第一次 ・一見関係なさそうに見える、携帯電話とゴリラに共通する点を考えさせる。その後、携帯電話に使われている素材であるコルタンとゴリラの生息地で起こっている現場の状況を想像させる。																			
1 時間 情報の整理	・携帯電話リサイクルの現状を読み取らせる。	第二次 ・情報を整理しながら生徒に考えさせる。																			
1 時間 再構築	・コルトンの採掘活動とゴリラへの影響を読み取らせる。 ・動物園が取り組んでいる携帯電話のリサイクル・プログラムについて読み取らせる。	第三次 ・携帯電話をリサイクルする、またはリサイクルしない理由について考えさせ、自己表現させる。他人の意見を聞き、自分の意見を再構築させる。																			
1 時間 内容確認	・本文内容の大きな理解をチェックする。																				
1 時間 文法確認	・本文中で扱われた言語材料の整理と運用練習を行う。																				

1 時間 内容確認	・本文内容に関連したテーマの音声を聞き、内容をつかむ。	第四次 ・その場で意見を聞き、その内容について瞬時に考え、生徒同士助け合いながら意見をまとめて発表することができるようにする。
1 時間 ディスカッション	・本文内容に関連したテーマで、自分の意見を英文でまとめて発表させる。 ・コンゴのゴリラを救う方法をグループ内で話し合わせ、英語で発表する。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

授業の中でワークシートを用いペアで答えを確認する場面において、携帯電話のリサイクルに関して、「なぜ既に使用していない古い携帯電話をリサイクルせずに、そのまま取っておいているのか」という質問に対して自分の考えを述べ、クラスメイトと情報を共有する場面を授業のポイントとした。

学習指導要領では、コミュニケーション英語Ⅲの目標を「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力をさらに伸ばし、社会生活において活用できるようにする。」としている。

本指導事例では、「なぜ既に使用していない古い携帯電話をリサイクルせずに、そのまま取っておいているのか」という質問に対して自分の考えを述べ、クラスメイトと情報を共有する活動を通し、特に「コミュニケーションを図ろうとする態度」を育て、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力」を伸ばすことに主眼を置いた。

【深い学びの実現に向けた工夫】

① 設定目標とその理由

本時を通して「生徒が英語でのコミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、自らの意見を発表して他の生徒たちと意見を共有する。そして、他の意見を聞いて、自らの意見を再構築すること」を目標として設定した。この指導事例の前段階で、生徒は自然環境を保護することについての知識やそれぞれの意見を持っている。しかし、その意見を他人に発信する訓練ができていないため、この目標を設定した。

② 具体的な工夫

本時の目標を達成するために、まずは身近なもの（本時は携帯電話）を用いて、その背景にあるレアメタルの採取やアフリカのゴリラの状況などを理解することを第一段階とした。次に状況を理解した上で、自然保護や未使用の携帯電話を保有することへの自分の意見を発表することを第二段階とした。生徒が自らの意見を書く前に、使用していない携帯電話を生徒に提示し関心を引いた。第三段階では、他の意見を聞いて自らの意見を再構築することを設定した。最後には、パワーポイントを使用し携帯電話のリサイクル率やリサイクルに出さない理由をランキング形式で提示した。

③ 実際に見られた生徒の様子

本時の中で、携帯電話のリサイクルを試みたいという反応や、未使用の携帯電話の利用法について驚いたという反応が多く見られた。またホームルーム日誌の中で、「今日の英語の授業はすごく楽しかった。普段何気なく使っている携帯電話やスマートフォンの裏側では、いろいろなことが起きていることに衝撃を受けた。もっと世界の色々なことを知りたい」という事を書いていた。その一方で、意見を一定の時間で英語にできず戸惑っている反応もあった。さらに、携帯電話のリサイクルにはあまり興味を持っていないので、他の話題であればもっと意見が言えるという反応もあった。

④ 振り返り

生活に身近な事柄から、「実際はどのようなのだろう」と関心を持たせることが「深い学び」を喚起させる第一歩である。さらに、幅広いジャンルの事例について取り上げることで、多くの意見が出てくると予想される。今後の課題としては、ある事象について、自らの意見を発表する反復練習を取り入れることと、意見を瞬時に英語で話す練習を取り入れることの2つがあると思う。

学習指導案

外国語科（コミュニケーション英語Ⅲ）

- 1 学 年 3 学年
- 2 教 材 名 Vivid English Communication Ⅲ（第一学習社）
- 3 大 単 元 名 Lesson5 Can Cellphone Recycling Help African Gorillas?
- 4 大単元の目標 英語で自らの意見を書いたり、話したりして自己表現することができることと、各自の身近なものを世界と結び付けて考えるきっかけとすること。
- 5 大単元の学習計画
 - ①背景知識を提示し、本時への興味付けを行い、携帯電話リサイクルの現状を読み取らせる。（本時）2時間
 - ②コルタンの採掘活動とゴリラへの影響を読み取らせる。2時間
 - ③本文の大きな理解をチェックする。1時間
 - ④本文中で扱われた言語材料の整理と運用練習を行う。1時間
 - ⑤本文内容に関連したテーマの音声を聞き、内容をつかむ。2時間
 - ⑥本文内容に関連したテーマで、自分の意見を英文でまとめて発表させる。2時間
- 6 本時の小単元名 Part2
- 7 本 時 の 目 標 ・英語で書いたり、話したりして自己表現することができる。【表現】
- 8 本時の学習展開

過程	学 習 内 容	生 徒 の 活 動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導 入	英語での口頭によるアクティビティ	・教師が読む英語を聞いて活動する。	・英語で質問をする。 ・本時の目標を確認する。	教師の質問をしっかりと聞いているか。 【関心・意欲・態度】	5分
展 開	Part1の復習と音読 Part2のワークシートを確認する。 ★印の質問について日本語で発表する。 日本の携帯電話リサイクル事情についてパワーポイントを見る。	・Part1の内容を思い浮かべながら音読する。 ・まずは、個人で解き進め、その後パートナーと情報を共有して解答を確認する。 ・生徒同士ペアで話し合う。	・生徒が間違えやすいリズムや単語の発音に注意させる。 ・個人→ペアの順で確認させ、その後全体で確認させる。 ・★印の質問について、生徒に質問する。	きちんと声に出して発音しているか。【関心・意欲・態度】 内容を理解しながらワークシートに取り組んでいるか。【理解】 自分の意見を相手に的確に話して伝えているか。 【表現】 <評価方法> A：正しい英文を駆使して説明できる。 B：既知の単語を使って説明できる。 教師の説明に注意を傾けているか。 【関心・意欲・態度】	40分
ま と め	コンゴに関する動画を見て、次回の学習内容を予測する。	・動画に注意を払い、次回の授業とどのようにつながるか予測する。	・コンゴ共和国やそこに生息するゴリラに注目させる。	・次回の授業内容を大まかに予測しながら動画を見ているか。 【関心・意欲・態度】	5分

9 本時の評価と手だて

- (1) 本時の評価： ★印の質問に対する自分の意見を的確に相手に伝え、きちんと表現することができるか。
手だて： 机間指導し、自らの意見をうまく表現できない生徒に対して助言する。

物語の背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに注目しながら考察し、形成された考えを英語で伝え合うことにより、多面的思考を育成する事例。

【学習活動の概要】

1 単元名 PROMINENCE Communication English Ⅱ(東京書籍) Lesson 8 Welcome to the world of Tove Jansson			
2 単元の目標 世界中で愛され続けるムーミンの世界について、作者トーベ・ヤンソンの生きた時代背景や登場人物の人生観や世界観から、物語に込められたメッセージを読み取ることができる。			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
「ムーミン」が時代や国を超えてあらゆる世代の人々から愛されている理由を、意欲的に知ろうとしている。	登場人物の心情を読み取り、彼らの気持ちを英語で表現することができる。	「ムーミン」の主要な登場人物の特徴をとらえ、物語に込められたメッセージを理解できる。	「ムーミン」の作者について知り、作品に込められた自由や平和について理解している。
4 単元の概要			
(1)学習内容 「ムーミン」の世界について、作者トーベ・ヤンソンが生きた時代背景や登場人物の人生観や世界観を捉えながら物語を読み取った上で、実際の物語に触れることにより、背景にある文化に対してより主体的に考察し、自らの考えを形成することにつなげる。その考えをクラス全体で共有する際に、外国語を用いて伝え合う「継続的なやり取り」の場面を設けることで、多様な考えを受け入れる寛容性と、情報を多角的に分析・整理しながら自己の考えを形成し、それを場に応じた適切な表現を用いて論理的に伝える能力・資質を育むことを意図した。			
(2)教材・教具 タブレット、プロジェクター、スクリーン、コミックプリント、シール、ライティングシート			
5 単元の指導計画（全8時間）			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (5時間)	【背景知識の獲得・本文の読解】 ・ムーミンについて知っている情報を共有する。 ・本文を読み、トーベ・ヤンソンについて背景知識を学び、ムーミン物語に込められたメッセージに目を向ける。	・本文の読解の前に、ムーミンについての大まかなイメージを持たせる。 ・作者の成長と時代の流れを時系列でまとめ、ムーミン物語との関連性に気づき、深い読み取りができるようにする。	
第2次 (1時間)	【感想の共有】 ・本文を読んで感じたことをまとめ、発表する。	・感想をクラスで共有することで、自分と異なる捉え方に気づかせる。	
第3次 (2時間)	【作品の読み取り、振り返り】 ・実際の作品を通して、トーベ・ヤンソンのメッセージを読み取る。 ・作品から感じたメッセージを共有し、考えを深める。	・実際の作品を読むことで、学んだ知識を生かしながら、作品に潜む作者の意図を主体的に考察させる。 ・意見を共有することで、一つの物語に対して多様な感じ方があることに気づかせる。	

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例では、学習指導要領コミュニケーション英語Ⅱの目標の中にある「情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力」と、新学習指導要領で外国語科の目標の中にある「統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」の育成に焦点を当てた。そのため、本文のから読み取った内容を基に、自分の考えを形成し、その考えを話したり書いたりして伝え合う活動や、やり取りした内容を踏まえて、自分自身の考えなどを整理して発表したり、文章を書いたりする活動の場面を設定した。具体的には、本文で扱われている作家の実際の作品を主体的に読み解き、グループ及びクラス全体で外国語を用いて自己の考えを伝え合う即興的なやり取りを行い、最後に英語でまとまりのある文章を書く活動を行った。

【深い学びの実現に向けた工夫】

(1) 生徒の実態と目標設定

ペア活動やグループ活動で他者の意見に素直に耳を傾け、違いを尊重する姿勢が見られる生徒が多い。しかし、物事を多角的に捉え、自分の力で深い洞察まで到達する生徒は少ない。また、ムーミンの物語に実際に触れた経験のある生徒はほとんどいない。そこで、授業で学んだ背景知識を基に、実際の作品を通して、「情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けること」と「やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりすること」を目標として設定した。

(2) 実現に向けた工夫

教科書本文は、ムーミンの作者について書かれたもので、ムーミン物語そのものは、断片的な扱いに留まる。そのため、実際の作品の一つを取り上げ、本文から読み取った内容・知識（作者の生きた時代背景等）を活用して、作者の視点に立ち、作品の中に潜むメッセージに焦点を当てながら主体的に読むことで、自己の考えを形成するように促した。また、他者とのやり取りを通して物語を捉えることで、視野が広がり個々の思考が深まると考え、複数回にわたってグループでの意見交換やライティングによる意見整理を行い、スパイラル的にムーミンの世界と生徒との距離を縮めながら、考えも深化できるように言語活動を設定した。

特筆すべき工夫としては、英語による即興的なやり取りを維持できるように、あらかじめ使用が予想される語彙を提示した。教材は、授業を重ねる中で、生徒から得られたフィードバックを基に修正・改良を加えたものを使用した。グループ活動では、活発な話し合いになるように、生徒に役割を与え、やり取りが継続するように仕向けた。複数回にわたるグループ活動でも、メンバー構成に変化を持たせることで、多様な考えを受容する姿勢と、相手に配慮しながら、その場に応じた適切な表現を用いて意見を述べる言語運用能力の向上につながるよう配慮した。

(3) 成果

対話を重ね、自他の意見を再構築する活動を通して、多様な価値観を尊重し受け入れながら、生徒の発話内容がより豊かな語彙と適切な表現を用いて論理的になっていく様子を見ることができた。事前に提示した語彙や役割が功を奏し、終始対話が途切れず、即興的なやり取りの継続が達成できていた。さらに、作品の読解・考察では、教科書で学んだ作品の時代背景や世相も鑑みることが重要であり、世界史や現代社会等で学んだ内容も生かされ、教科横断型の内容となった。今後は、これからの社会や世界と自己の関わりについて能動的に考える機会を与えるために、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) との関連性を持たせた言語活動も取り入れたい。英語による様々な言語活動を繰り返し行うことで、生徒の批判的思考や論理的思考と主体的に学習に取り組む態度を養いたい。

(4) 課題

今回は即興のやり取りが求められる展開であったが、活動の合間に自他の意見をまとめる時間を設定することで思考をより深めることができ、さらに高度な表現を引き出すことにつながると考えられる。また Journal Writing のフィードバックの工夫により、書くことに対する生徒の Accuracy の強化にもつながっていきたい。

学習指導案

外国語科（コミュニケーション英語Ⅱ）

- 1 学 年 2 学年
- 2 教 材 名 PROMINENCE Communication English II（東京書籍）
- 3 大 単 元 名 Lesson 8 Welcome to the world of Tove Jansson
- 4 大 単 元 の 目 標 世界中で愛され続けるムーミンの世界について、作者トーベ・ヤンソンの生きた時代背景や登場人物の人生観や世界観から、物語に込められたメッセージを読み取ることができる。
- 5 大単元の学習計画 (1)ムーミンに関する情報を共有し、興味・関心を持たせる。(1/8時間)
(2)part1-2の概要を把握し、作者の生きた時代背景を理解する。(3/8時間)
(3)part3-4の概要を把握し、登場人物やストーリー展開から作者のメッセージを読み取る。それについて意見を共有し、英語で表現する。(5/8時間)
(4)読んだ内容をもとに感想や意見を述べ合い、質疑応答を通してさらに考えを深める。(6/8時間)
(5)実際の作品を通して作者のメッセージを読み取り、グループで話し合い考えを深め、その結果を英文で書きまとめる。(本時:8/8時間)
- 6 本時の小単元名 実際の作品から作者のメッセージを読み取り、英語でのやりとりを通してまとめた英語で表現する。
- 7 本 時 の 目 標 テーマについて自分の言いたいことを英語で相手に伝え、やりとりを続けることができる。【外国語表現の能力】
- 8 本時の学習展開

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導入	本時の目標と流れの確認 「“彗星がふって来る日”には作者のどんなメッセージが込められているか」 1 minute chat (ペア) [Topic] How did this story make you feel? What is your impression of this story?	トピックについて自分の意見を相手に伝える。	生徒の気持ちを英語に向かわせる。		5
展開	①Group Talk 1 (4人1グループ)	・作者のメッセージを感じる場面にシールを貼る ・どのようなメッセージを感じるか意見交換する。メモを取りながら聞く。	役割分担を確認させ、グループで貢献することを促す。	<評価方法①②③> テーマについて自分の言いたいことを英語で相手に伝え、やりとりを続けることができたか。 A: 言いたいことを伝え、会話を続けることができた。 B: 言いたいことを伝えることができた。 C: 言いたいことを伝えることができず、会話も続けることができなかった。	15
	②Group Talk 2 (担当ページごとのグループ)	・担当ページごとに集まり、意見交換する。	担当ごとに集まるエリアを指示する。		10
	③Group Talk 3 (①のグループ)	・①のグループに戻り、新しい意見を共有する			5
	④Journal Writing 記入	・自分の考えを整理し、英文で書きまとめる。			10
まとめ	振り返り (ペア)	Journal Writingを交換し、コメントを付け加える。	Journalを回収し、良い意見を後日スライドにまとめ紹介する。		5

9 本時の評価と手立て

- ①②③テーマについて自分の考えを正確に相手に伝え、英語でやりとりを続けることができているか。
手立て：平易な表現を用いたQAによって生徒の考えを引き出し、表現させる。

Journal Writing (Lesson8)

HR No Name

What do you know about Moomintroll and its creator?

--

Free Writing

1 Topic _____

Self-evaluation A B C

2 Topic _____

Self-evaluation A B C

3 Topic _____

Self-evaluation A B C

1	Self-evaluation A B C	Self-evaluation A B C
2		
3		
4		
5	Self-evaluation A B C	Self-evaluation A B C
6		

文章を読んで出た意見をグループで可視化（外部化）し、それらを共有することによって、深い学びにつなげる事例

【学習活動の概要】

1 単元名 PROMINENCE Communication English Ⅲ（東京書籍） Lesson 9 A New Way of Remembering			
2 単元の目標 記憶媒体の変遷やコミュニケーションツールの発展過程において、適度な知識を持ち、現状と問題点を理解することができる。			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ディスカッションを通して、グループでの言語活動に積極的に取り組むことができる。	人間相互のコミュニケーションに対して、教科書表現を活用しながら英語で説明できる。	周囲の意見や発表を聞いて、情報や考えなどを理解できる。	記憶媒体の変遷やコミュニケーションツールの発展過程において、適度な知識を持ち、現状と問題点を理解することができる。
4 単元の概要			
(1) 学習内容 「記憶の外部化」について、身近にあるものであるということを理解した上で、グループでそれについての意見を共有し、協力しながら模造紙にまとめる。まとめ上げた模造紙をクラス全体で共有し、さらに新たな情報を集め、ディスカッションすることで理解を深める。また、それらを英語でまとめることで、外国語を駆使し適切に伝え合い、表現できる資質・能力を育むことを意図した。さらには、自分の意見や考えを客観視し、再構築させ、実際に生徒が授業を通して「記憶の外部化」を行っていることを感じさせる意図もある。			
(2) 教材・教具 ・評価シート、シール、タブレット、プロジェクター、スクリーン、マジック、模造紙			
5 単元の指導計画（全5時間）			
次	学習活動		深い学びに関する指導上の留意点
第1次 (2時間)	【興味関心を高める・本文の読解】 ・「記憶の外部化」について触れ、生活の中でも身近に溢れていることを知る。 ・本文を読み、筆者の考えを読み取り、「記憶の外部化」について筆者が述べるメリット、デメリットについて知る。		・本文の読解に入る前に、身近なものに「記憶の外部化」が使われているということを気付かせることで、そこから考えられる現代の問題にも関心を持たせ、自分の意見・考えの形成につなげる。
第2次 (2時間)	【模造紙の作成・ディスカッション①】 ・「記憶の外部化」について付箋をもとにグループで話し合う。 ・話し合った内容を模造紙にまとめ、グルーピングを通して考えをまとめる。		・グループで出し合った意見を共有し、自分と異なる意見を聞くことで、物事を多面的に考える。
第3次 (1時間)	【ディスカッション②・振り返り】 ・まとめた意見を他のグループと共有し、		・他のグループの模造紙からさらに多く

	<p>考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有した意見を参考にして新たなメンバーと「記憶の外部化」についてディスカッションする。その際に表現を工夫して伝え合う。 ・自己評価を行う。 ・ワークシートの回収。 	<p>の意見を取り入れ、自らの意見を再構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが行っている再構築の作業が「記憶の外部化」に繋がることであるということを知る。
--	---	---

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例では、「記憶の外部化」についてディスカッションを行うため、考えたことを相手にわかりやすく伝えるために、聞いたことを即座に理解し、さらに相手に意見を返すという即興性が必要である。学習指導要領のコミュニケーション英語Ⅲの目標にある「簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する」や「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他社との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築する」ことを通して能力を向上させることに繋がるものと考えられる。また、話し合いの内容を可視化（外部化）し、それらから得た情報を再構築し、自らの意見を反映させて考えを深めることも大切である。そのため、グループ活動やディスカッションを通して、情報や考えを的確に理解したり適切に伝えたりする言語活動の充実が必要である。

【深い学びの実現に向けた工夫】

(1) 生徒の実態と目標設定

ディスカッションやライティング活動を得意とする生徒は多くない。しかし、ペアやグループ活動に対しては意欲的に取り組む生徒が多く、授業の雰囲気も和やかである。そこで、普段の生活でもよく目にする「記憶の外部化」について意見を可視化した上で行うディスカッションを通して、「知識、技能及び思考力、判断力、表現力等の資質・能力を一体的に育成すること」を目標として設定し、周囲と考えを深められるような工夫を取り入れた。

(2) 実現に向けた工夫

全体で意見を共有した内容をもとに再度自らの意見を構築し、英語で書きだすことが目標であるということを経験の最初に明示することで、最初からディスカッションで相手に伝わる表現について考えたり、それらを英語で表現することについて意識を持たせるようにした。また、グループでの話し合いや意見の可視化を通して、自分とは異なる意見を聞き、物事を多面的な視点から考え、周囲の意見を取り入れたうえで自らの意見をまとめることで、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築する場を設定した。さらに、それらを数回繰り返すことで、個々の思考がより一層深まる機会になると考えた。

(3) 成果

ディスカッションに至るまでに、十分な準備時間を設けることで、最終日はほぼ全員が英語で話し合いができた。ディスカッションの前に模造紙に考えをまとめることで、それが実際の「記憶の外部化」となり、話し合いを加速させている部分も見られたのが良かった。また、文字に考えを起こす際にも悩むことなく書き始める生徒がほとんどであったため、充実した意見交換ができ、生徒自ら頭の中で考えの再構築ができたものと思われる。

(4) 課題

- ・細かいところでの準備不足があったのが、授業の流れを少し滞らせた。
- ・全体で模造紙を確認した後に、クラス全体の意見としてまとめあげる時間を設けても良かった。
- ・最後に文字に表した際に、細かな部分での文法ミス等が多く見られたので、その部分に対する指導を充実したものにしたい。

学習指導案

外国語科（コミュニケーション英語Ⅲ）

- 1 学 年 3 学年
- 2 教 材 名 PROMINENCE Communication English III（東京書籍）
- 3 単 元 名 Lesson 9 A New Way of Remembering
- 4 大単元の目標 記憶媒体の変遷やコミュニケーションツールの発展過程について、適度な知識を持ち、現状と問題点を理解することができる。
- 5 大単元の学習計画 (1) 記憶に関する知識を提示し、興味付けを行う。（1/5 時間）
 (2) 本文の内容を読み取る。（2/5 時間）
 (3) 「記憶の外部化」についてペアやグループで話し合い、考えを深める。（3/5 時間）
 (4) 「記憶の外部化」について周囲と情報を共有し、それらを模造紙にまとめる。（4/5 時間）
 (5) 「記憶の外部化」についてグループでディスカッションを行い、話し合いの結果をある程度まとまった英文で書き上げる。（本時：5/5 時間）
- 6 本時の小単元名 ディスカッションを通して得た意見を取り入れて、自分の意見を書いてみよう。
- 7 本時の目標 ディスカッションに積極的に参加することができる。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
 周囲の意見を取り入れて、ある程度まとまった英文を作成することができる。【外国語表現の能力】
- 8 本時の学習展開

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導入	・本時の目標の確認	・画像を見て情報収集を行う。	・スクリーン上に画像を映し、共有する。		10
展開	①意見の共有 情報をまとめる	・前回各グループでまとめた模造紙を机に置き、教室を歩き回り各自で情報を収集する。 ・良いと思う内容にシールを貼って回る。 ・ディスカッションに向けて、自分の意見をまとめる。	・以下を行う。 付箋配布 トランプ配布 時間計測 シール配布	<評価方法②> ・ディスカッションに積極的に参加できたか。 A：相手の意見を聞き、また自分の意見も伝えた。 B：相手の意見を聞いた、または自分の意見を伝えることができた。 C：相手の意見を聞けず、自分の意見も伝えられなかった。	10
	②ディスカッション 「記憶の外部化のメリット・デメリットについて」	・新たなグループを作り、ディスカッションを進める。	・グループを作るように指示する。	<評価方法③> ・周囲の意見を取り入れて、ある程度まとまった英文を作成することができる。	15
	③評価シートに記入	・他の意見を集約し、テーマに対して自分の意見をある程度まとまった英文で書く。	・シートを配り、自己評価に併せて生徒自身の意見を英語で書くように指示する。	A：周囲の意見を取り入れてまとまった英文で書けた。 B：自分の意見をまとまった英文で書けた。 C：英文が書けなかった。	10
まとめ	次回の授業連絡	・シートの提出間に合わなければ後日提出	・提出に関して指示する。		5

9 本時の評価と手だて

②ディスカッションに積極的に参加できたか。

手だて：机間指導を行い、躓いている生徒にはヒントを与える。

③周囲の意見を取り入れて、ある程度まとまった英文を作成することができたか。

手だて：机間指導を行い、躓いている生徒にはヒントを与える。また、画像などから連想させる。

評価シート（コミュⅢ） 3年4組 番

【自己評価】太枠内で該当する部分に○をつけること。

①と②クリア→A ①または②クリア→B ①および②ともにクリアせず→C

	A (良い) 2つクリア	B (ふつう) 1つクリア	C (要改善) 0クリア
Reading ① 他チームの模造紙に書いてある内容大まかに理解できた。 ② 良い意見を選び出し、シールを貼って評価することができた。			
Speaking ① 自分の意見を英語で伝えることができた。 ② 相手に英語で質問することができた。			
Listening ① 第1グループでの話し合いの内容を大まかに理解できた。 ② 第2グループでの話し合いの内容を大まかに理解できた。			
Writing ① 自分の意見を書くことができた。 ② 周囲の意見を取り入れて書くことができた。			

【まとめ】ディスカッションを通して、「記憶の外部化」について自分の意見を英語で書こう。(50語以上)

「グローバル化」について、賛成や反対の立場から、情報や考えなどを理由や根拠とともに話して伝え合うことにより、自己の考えを深める活動事例。

【学習活動の概要】

1 単元名 『MY WAY English communication I』（三省堂） Lesson6 Washoku - Traditional Japanese Dishes -			
2 単元の目標 無形文化遺産に登録された和食の特徴と食文化の伝統を守る取組について学び、グローバル化について考えを深める。			
3 単元の評価規準			
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
グループワークを通して、他者との言語活動に積極的に取り組むことができる。	教科書の表現を活用しながら、テーマに関する自分の考えを英語で他者に伝えたり、書いたりすることができる。	他者の意見を英語で聞いたり見たりして、情報や考えなどを整理して理解することができる。	和食の特徴や食文化の伝統を守る取組について学ぶとともに、グローバル化のメリットやデメリットについて理解を深めることができる。
4 単元の概要			
(1) 学習内容 グローバル化が進むとともに食文化の伝統を守る取組がおこなわれているという現状について理解することに加え、グローバル化のメリット・デメリットについて考えさせる。はじめにグループ内で意見を出し合い、ボードに整理してまとめる。他のグループの意見も知ったうえで再度情報を整理し、各自の考えを伝え合うことで考えを深める。まとめとして、個人で英作文を行う。			
(2) 教材・教具 ワークシート、ホワイトボード、マジックペン、付箋			
5 単元の指導計画			
次	学習活動	深い学びに関する指導上の留意点	
第1次 (6時間)	【文法事項の確認・本文読解】 ・セクションごとに文法事項や重要表現について学習する。 ・音読や本文要約等の活動を通して本文の内容について理解を深める。	・本文に入る前の導入として、生徒にとって身近な料理や輸入食品の例を挙げさせる。食のグローバル化と和食の変化が他人事ではなく、生活の中のごく身近な問題であることに気付かせるようにする。	
第2次 (2時間)	【意見の共有】 ・テーマ「グローバル化の是非」 ・個人でマインドマップを作る。 ・グループを作り、グローバル化の長所・短所を付箋に書いて情報を共有し、テーマに対する各自の意見を伝え合う。出された意見も付箋に書いてホワイトボードに整理する。 ・他のグループのボードを見て回り、共感した情報や意見をメモに取る。 ・グループに戻り、各自の意見を英語で簡潔にまとめ、話す。	・食文化以外にも多様なものがグローバル化しているということに気付かせる。 ・生徒各自から出された「情報」と「意見」を付箋に書き込むことにより、情報を整理しながら、自己の考えを形成していけるように仕向ける。 ・他者の意見を知ることで、自己の意見の正当性を振り返り、考えを深めさせる。 ・メモを利用しながら、意見を伝え合うように指示する。また、間違いを気にせず、意見のやり取りを継続することに重点を置かせる。	

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を英語 30 語以上のまとまりのある文章で表す。 ・自己評価を記入する。 ・ワークシートの回収。 | |
|--|--|

【解説】

【指導事例と学習指導要領の関連】

本事例は、学習指導要領コミュニケーション英語 I の内容にある「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする」活動である。ねらいは、グローバル化という社会的な話題に関して、賛成や反対の立場から、情報や考えを伝え合う受信と発信を統合させた言語活動を通して、考えを形成・深化させる点にある。さらに、相手に分かるように意見を伝え合うためには、論理的に適切な英語で表現することが大切だということに気づく機会となり、次の学びに向かう姿勢を養うことも意図した。

【深い学びの実現に向けた工夫】

(1) 生徒の実態と目標設定

学習意欲が比較的高いクラスであり、授業内の諸活動にも一生懸命に取り組む生徒が多い。語彙と英語の音声の定着を目標に、音読・リスニング・本文の暗唱暗写などインプット中心の授業を展開しているため、自分の意見を英語で表現する活動には慣れていない。「意見の共有を通して学びを深める」という視点での授業は初の試みである。また、現段階では英作文やスピーキングに関して本格的な指導を行っていないため、文法的な正確さなどは取り上げず、自分の意見を英語で相手に伝え合うことを目標とした。

(2) 実現に向けた工夫

テーマは食文化に限定せず「グローバル化の是非」と広く設定し、生徒から多様な意見が出るようにした。個人の考えをより深いものへと深化させるためには、継続的な意見のやり取りが行われる言語活動を行うことが大切だと考え、段階を踏んだ場面設定を次のように行った。「①個人によるマインドマップ→②付箋を使用したグループによる情報と意見のやり取り→③他のグループの意見（付箋）を見ることによる、クラス全体での情報・意見共有による多角的な考察→④グループに戻り、新しい情報を加えた意見のやり取り」である。最後に、個人の考えが深まったことを自己理解するために、ライティング活動も行った。

(3) 成果

多くの生徒が英語で、相手に分かるように適切な言葉で論理的に自分の考えを伝えられないもどかしさを体感することで、コミュニケーションを継続するためには英語の言語的な知識をしっかりと身につけた上で、適切な語彙や表現を場面に応じて活用する必要があるということを知り、学習意欲を高めたようである。しかしながら、基本的な語句や文を用いて、自分の考えを伝え合う活動を通して、「物事には必ず二つの側面があることに気が付いた」「他者から新しい視点を与えられて考えが深まった」等、思考を深められた喜びについてのフィードバックも得られ、生徒たちが主体的で深い学びを実現するための第一歩となったのではないかと思う。

(4) 課題

高校1年生が「グローバル化」という大きなテーマについて考えるための第一歩としては良い機会であったと言えるが、テーマが広いため意見が整理しにくかったようである。生徒から出てきたカテゴリーの中からいくつかを取り上げて、班ごとに割り振るなどの工夫をすることで、より深い意見のやり取りができると思われる。定期的に様々な言語活動を組み入れることにより、最終的にはディベートにつながられるようにしていきたい。また、教科横断的な視点を与えたり、入試問題との関連に気付かせたりすることも重要である。適切な方法を模索し続け、生徒の深い学びを実現させられるようにしたい。

学習指導案

外国語科（コミュニケーション英語Ⅰ）

- 1 学 年 1 学年
- 2 教 材 名 MY WAY English Communication I（三省堂）
- 3 単 元 名 Lesson 6 *Washoku* – Traditional Japanese Dishes –
- 4 大単元の目標 無形文化遺産に登録された和食の特徴と食文化の伝統を守る取組について学び、グローバル化について考えを深める。
- 5 大単元の学習計画 (1) Section ごとに導入(リスニング)、文法事項確認、音読、暗唱、暗写等の活動をおこない、内容の定着（インプット）を図る。（1～6/8 時間）
 (2) 本文内容を日本語で要約し、ペアで共有する。「グローバル化に賛成か反対か」というトピックについて意見を出し合う。（7/8 時間）
 (3) グループ内及びクラス全体でテーマに関する意見を共有し、賛否の立場を明確にししながら自分の意見を簡潔に英文で書く。（本時：8/8 時間）
- 6 本時の小単元名 「グローバル化に賛成か反対か」について他者と意見を共有し、自分の意見を英語で再構築する。
- 7 本時の目標 英語を積極的に用いて他者と意見を共有し、共有した内容をもとに自分の考えを深める。
 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

8 本時の学習展開

過程	学習内容	生徒の活動	教師の活動と指導上の留意点	評価の観点・方法等	時間
導入	・単語（ユメタン） ・本時の目標と活動内容の確認	・英単語の音読			5
展開	①グループ内での意見の整理（ボードの完成）	・前時にグループで出した意見を整理しボードを完成させる。	・グループを作るように指示しボードを配布する。 ・各グループで出した意見を、話し合いながらマーカーを用いて整理させる。 ・追加の意見があれば、書き込ませる。	<評価方法> ・英語を積極的に用いて他者と意見を共有し、自分の意見を深められているか。 A：積極的に他者と意見を共有し、自分の意見をある程度まとめた英語で表現できている。 B：意見共有に参加し、自分の意見を英語で表現できている。 【活動観察・ワークシート点検】	10
	②クラスでの意見共有（ボードの共有）	・他のグループのボードを各自で見回る。 ・適宜メモを取る。	・他グループのボードを見て回るよう指示する。		8
	③個人の意見の整理、共有（グループ内）	・グループに戻り、自分の意見を整理する。 ・賛成・反対の立場を明確にして、一人ずつ意見を話す。（日本語・英語）	・自分のグループに戻るよう指示し、メモ欄を活用して考えをまとめさせる。 ・ある程度まとまったら、自分の立場を明確にして一人ずつ意見を整理して話させる。（日本語・英語）		10
	④英作文、自己評価	・個人で英作文と自己評価を行う。	・ワークシートに英作文及び自己評価を記入するように指示する。 ・周囲と相談しながら書いてよい。		15
まとめ	・今回のまとめ ・次回の授業連絡	・シートの提出	・シートを回収する。		2

9 本時の評価と手だて

英語を積極的に用いて他者と意見を共有し、共有した内容をもとに自分の考えを深められているか。
 手だて：机間指導を行い、発話や英作文につまずいている生徒には適宜ヒントを与えるなどして指導する。

自己評価・英作文

◆自己評価（A：よくできた B：できた C：あまりできなかった）一つ選び○で囲むこと

1. グループ活動に積極的に取り組むことができた。 【 A ・ B ・ C 】
2. なるべく英語を用いて自分の考えを適切に他者に伝えようとした。 【 A ・ B ・ C 】
3. 他者とのやりとりを通して、自分の考えを深めることができた。 【 A ・ B ・ C 】

◆活動の振り返り（日本語で記入） … テーマについて考えたこと、感想等

◆英作文

Topic: Do you agree or disagree with globalization?

… 目標 30 語以上 共有した意見をもとに具体例を述べること

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

【 words 】

No. () NAME ()